

# THE ECHO

大田黒衣美

大庭大介

鬼頭健吾

桑田卓郎

小金沢健人

榊原澄人

竹村京

ニシジマアツシ

ハラサオリ

パラモデル

三家俊彦

山本麻紀子

アートプロジェクト 高崎

2016.9.24 SAT - 10.4 TUE

高崎シティギャラリー 第1展示室・予備室 観覧無料

開催時間: 24日(土) 13:00から / 通常 10:00~18:00 / 4日(火) 15:00まで

主催: 高崎アートインキュベーション推進会議 共催: 高崎財団、高崎観光協会、ラジオ高崎 後援: 高崎市

**APT**  
ART PROJECT TAKASAKI



# THE ECHO

## アートプロジェクト高崎

2008年、横浜ZAIMにて開催されたECHO展は、21人の若手アーティストによる自主的な展示活動として組織されました。学芸員の選考によって編成される地域芸術祭や美術館といった既存の枠組みに対し、同世代、同都市における共通認識を核として、若手アーティストによる同士評価(peer evaluation)と相互紹介によって有機的に組織されました。現代アートにおける国内最大級のイベント横浜トリエンナーレに合わせて行われた第1回ECHO展は、国内外より大きな反響を生み、その後も中核メンバーの移動によって、第2回目のベルリン(2012年、ベタニアン)、第3回ケルン(2013年ケルン日本文化会館)へと引き継がれ、開催都市のアートシーンを吸収しつつ発展し、第4回の本企画へと至りました。

高崎における『ECHO 4』は、本企画の発起人である鬼頭健吾と、ECHO第1回展からの出展作家大庭大介など、計13名の作品で構成され、光と色彩の効果が、彫刻、映像、絵画など領域横断的に展開されます。偏光パールのアクリル絵の具を用い、鑑賞者がキャンパスの前を移動することで色面が表情を変える絵画作品を見せる大庭大介。日用品としてのアルミホイルを用い、巨大で複雑な形状をあらゆる三家俊彦の彫刻作品、原色に彩られた多数のアクリルプレートが回転しスポットライトの反射によって無限の広がりを見せる鬼頭健吾の空間構成、音や光などを組み合わせた映像やインスタレーション、パフォーマンスで知られる小金沢健人など、東京都現代美術館、金沢21世紀美術館、横浜美術館など、圏内でも指折りの現代アート美術館で紹介されている作品群が一堂に介します。また、山本麻紀子によるワークショップ、榊原澄人によるアニメ作品など、地域コミュニティの理解と参加をえられる構成を心がけ、日常生活や都市風景の延長に、国際的な現代アートの文脈が連結する市民参加型の展覧会を実現し、芸術文化の街高崎における現代アートの広がりを深く印象づけます。

### アーティストプロフィール

#### ARTIST PROFILE (50音順)

##### 大田黒衣美 Emi Otaguro

1980年福岡県生まれ。東京造形大学美術学科絵画科専攻を卒業後、東京藝術大学大学院にて修士課程修了。愛知県在住。ボール紙、チューイングガムや鶏の卵殻、ビニールシートやトタン板など、身の回りに存在する日用品や大量生産された工業製品から描画材や支持体を選択し、物語を紡ぎながら作品制作を行う。



##### 大庭大介 Daisuke Ohba

1981年静岡県生まれ。画家、京都造形芸術大学大学院准教授。2007年東京藝術大学大学院美術研究科油画修了。光の移ろいや鑑賞者の立ち位置によりイメージや色彩が変容しつづける絵画を特殊な偏光系のアクリル絵具をもちいて様々な道具やルールを設定した方法論をもとに多角的に展開させる。



##### 桑田卓郎 Takuro Kuwata

1981年広島県生まれ。2001年に京都嵯峨芸術大学短期大学部美術科陶芸コースを卒業、2002年に陶芸家財満進氏に師事、2007年に多治見市陶磁器意匠研究所を修了。現在は岐阜県土岐市に工房を構えて制作している。第6回益子陶芸展(2006年)での濱田庄司賞をはじめ、受賞多数、国内外で個展やグループ展を行なっている。



##### 榊原澄人 Sumito Sakakibara

1980年北海道生まれ。長野県在住。私的な題材を主題に、反復／変化／フレーム構造などを用いた、複数の同一人物や物事が一つの空間内に同時多発的に映し出される映像インスタレーションを制作。2014年、スイスのAnimatou国際短編アニメーション部門で大賞を受賞したほか、多数の国際的なアワードを受賞している。



##### ニシジマ・アツシ Atsushi Nishijima

1965年京都府生まれ。'80年代半ばよりライブ・エレクトロニック・ミュージックによる演奏を始める。その後、サウンド・オブジェやインスタレーションなどの制作も始め、Citycircus-Rolywholyover A Circus-JohnCage (New Museum of Contemporary Art, NewYork, 1994)に出展するなど、国内外の展覧会やイベントに多数参加し、作品制作・演奏を行っている。



##### ハラサオリ Saori Hara

東京生まれ。幼少よりクラシックバレエ、モダンダンスを、大学にてデザイン、アートディレクションを学び、2012年より東京とベルリンを拠点に作家活動を開始。以後、日本や欧州各国で制作と発表を行う。日常的な人の運動や所作に潜む美しさと違和感をテーマに振付をおこし、舞踏譜、ドローイング、映像なども制作する。



©Mizuki Kin

##### 三家俊彦 Toshihiko Mitsuya

1979年大阪府生まれ。2004年成安造形大学造形美術科彫刻クラス卒業。現在のアルミホイルの彫刻シリーズは、台所用アルミホイルで作られた300体の彫刻を並べたインスタレーション"The indignant"から始まった。幼少期からこの小さい彫刻を遊びの中で作っており、このインスタレーションは言わば、幼少期の記憶ストレージの中からの再構成と言える。



### ワークショップ

#### WORKSHOP

「デーラボウ?ダイダラボッチ?ディラボッチャ?

ー巨人さんの謎に迫ろう」山本麻紀子

10月2日(日) 10:00~16:00

高崎市総合保健センター4F運動室／参加費無料



日本各地にはたくさんの巨人伝説が残っています。高崎には、榛名富士(山)を作ったといわれている巨人さんがいます。「大きい」をテーマに、巨人さんの世界に近づいてみよう。伝説を元に、巨人さんが残っていたものを造作したり、巨人絵図を制作します。

ワークショップ 募集要項
10月2日(日) 10:00~16:00 会場:高崎市総合保健センター4F運動室 対象:小学1年生~6年生30名/参加費:無料 ※お弁当・飲み物をご持参ください ※当日は汚れてもいい服でお越しください ※完成した作品は後日展示します。
お申し込み 氏名、住所、電話番号を高崎財団までお電話にてご連絡ください(先着順)。 APT事務局(高崎財団内) Tel:027-321-1213(土日休)

#### アートプロジェクト高崎 同時開催

<b>武藤順九の宇宙</b> 高崎シティギャラリー 第2展示室
<b>アーバンプロジェクト 松岡洋太×豊田玉之介</b> ラジオ高崎・高崎市役所 壁面や建造物にペインティング、大壁画を展示するダイナミックなパブリックアート。
主催:高崎アートインキュベーション推進会議 共催:高崎財団、高崎観光協会、ラジオ高崎 後援:高崎市

お問い合わせ:APT事務局(高崎財団内)

〒370-0829 群馬県高崎市高松町35-1 TEL:027-321-1213 ※土日休

高崎シティギャラリー

〒370-0829 群馬県高崎市高松町35-1 TEL:027-328-5050

##### パラモデル paramodel

林泰彦(デザイナーを経て、2001年 京都市立芸術大学構想設計専攻卒業)と中野裕介(2002年 同大学日本画専攻修了)が2001年に結成したアートユニット。共に東大阪出身。『パラモデル:世界や心の色々な部品から組み立てる、詩的な模型/設計図』というコンセプトを核に共存、互いの視差 [parallax] と関係性を生かし、多様な形式で作品を制作。



##### 山本麻紀子 Makiko Yamamoto

1979年京都府生まれ。京都市立芸術大学院美術研究科 絵画専攻 構想設計修了。参加者や協力者と社会環境を取り込んだサイトスペシフィック・プロジェクトを手がける現代美術家。2013年より、茨城県水戸市とイギリス・コーンウォール州の子どもの対象に、地元に残る巨人伝説を基軸にしたワークショップ・プログラム“いだらぼうとホリバーン”を継続して行っている。



※本展に出品されるパラモデルの作品は会期中に作家が滞在し、公開制作されます。

### パフォーマンス

#### PERFORMANCE

「逃げる光、転がる女」

小金沢健人、ハラサオリ

9月24日(土) 19:00開演/18:30開場

高崎シティギャラリー コアホール／観覧無料



アーティスト・小金沢健人とダンサー・ハラサオリによるステージパフォーマンス。ドイツを拠点として活躍する若手2人の日本人アーティストが多彩な手法を用いておこなう即興の身体表現。

### アクセスマップ

#### ACCESSMAP



**APT**  
ART PROJECT TAKASAKI



URBAN  
PROJECT

TAMANOSUKE TOYODA

豊田玉之介

YOUTA MATSUOKA  
JONJON GREEN

松岡洋太

松岡洋太 YOUTA MATSUOKA 2015

アートプロジェクト高崎

2016. 9.24 SAT - 10.4 TUE ラジオ高崎・市庁舎1F

主催：高崎アートインキュベーション推進会議 共催：高崎財団、高崎観光協会、ラジオ高崎 後援：高崎市

APT  
ART PROJECT TAKASAKI



## アーバンプロジェクト(ミューラルアート)について

昨今、日本でもにわかに注目を集めはじめた「ミューラルアート」。もとは欧米諸国で自然発生的に広がったストリートアートがルーツの一つでもあるこの新しいアート・フォームは、街にある既存のビルの壁面や建造物にペインティングするという、街中全ての人々に向けられた非常にダイナミックなパブリックアートです。街に大きな絵を描くというそのシンプルさ・地域の風景を一変させる大きな影響力をもつことから、観光を中心とした行政事業の取り組みとして世界各地の名だたる大都市からローカルタウンまでそれぞれの目的をもって歓迎され、広く普及し浸透し始めています。このフィールドでは、いずれも従来の絵画の常識を逸脱・凌駕するような斬新なアーティストが活躍しています。同時代の作家によってその地域や場所・そこに集う人々の文化や気配、すなわち「今、ここ」を、前衛的な感性で鋭く捉え、息遣いそのままに記録するエネルギーギッシュな芸術表現です。唯一無二のすぐれたアート作品が不特定多数の目に触れる場に描かれるということは、街に新しいランドマークが生まれることを意味します。また現在では、既存のメディアにとどまらずSNSの個人投稿などを通じて国際的にも大きな注目を集め、地域のアイデンティティとして機能していくことでしょう。

「ART PROJECT TAKASAKI アーバンプロジェクト」においても、たくさんの人々の心を踊らせるような素晴らしいアートが生まれると同時に新しい文化の発信と交流が発生し、地域全体の活性につながっていく、そんな未来にポジティブな影響をもたらすプロジェクトとなることを期待しています。

Kenji Daikoku (大黒健嗣・キュレーター、アートディレクター・AMP、BnA hotel Koenji etc..)

### 松岡洋太 YUTA MATSUOKA (JONJON GREEN)

1978年 群馬県高崎市生まれ 多摩美術大学美術学部卒業。

ビートカルチャー、グラフィティカルチャーといったストリートと密接した文化と、ヒッピーカルチャーやバンクなどのカウンターカルチャーに影響を受け、大学卒業後単身アジア、ヨーロッパを放浪。帰国後の2004年よりライブペインティングを軸に制作活動を開始。現在までに日本、アメリカ、シンガポール、カナダでの展示、またコココーラジャパン、ユニクロ、FACEBOOK japan、instaglam japan、Heineken等の大手企業や多様なアーティスト達とのコラボレーションワーク、室内外への壁画制作、アートショー企画、など活動の幅は多岐に渡る。

この度の「ART PROJECT TAKASAKI アーバンプロジェクト」では、ラジオ高崎に特別に設置された壁面に大サイズのミューラルアートが描かれる。パレットの上で偶発的に現れるような様々な色彩実験を一つの画面に収めていくセルフカラージュ的な手法で描く抽象表現のペインティング作品は高い評価を受け、キャンバスにとどまらずfacebook japanのオフィス内壁画や“泊まれるアート”をコンセプトにしたアートホテル「BnA hotel」等、様々な場所へのミューラル作品を残している。また、今年シドニーで開催されるbeams festivalなどのアートフェスティバルをはじめ、国内外の実験精神あふれる魅力的なアートプロジェクトから招待を受ける、まさに今このフィールドで最も注目を浴びる、挑戦的でホットなアーティストの一人。

web / www.jonjongreen.com



h2.7m×w20m×three Pillar and ground  
Mural at Bction art project Tokyo japan 2014

### 豊田玉之介 TAMANOSUKE TOYODA

1988年 群馬県高崎市生まれ 信州大学教育学部美術教育分野卒業

小さな頃から絵を描くことが好きで、将来は漠然と絵を描く仕事をしたいと考えていました。美術を仕事にするためには、まず、唯一無二の作品を作ることが自分にとっては最低条件で「新しい表現...新しい表現...」と自分に言い聞かせながらこれまで制作に取り組んできました。大学に入学した時もそれは変わらず、新たな表現のために素材を変えてみたり、基底材を変えてみたり時間の許す限り、思いつく限り様々なことを試しました。現在のマンガのような表現で絵を描き始めたのは大学4年生の頃、古本屋で見つけた義春や水木しげる等の作品に影響を受けて描き始めました。この表現を始めた当初からマンガのようにストーリーのあるものは描けるとも思っていなかったし、描こうとも思っていなかったのですが、ただ、四角いコマの中に吹き出しを入れる行為や前後のコマの関係を楽しみながら実験的な作品を作っていました。

大学を卒業してしばらく経った2014年、高崎のSNARKというところで、これまで実験的に制作してきた作品を発表した際、アートディレクターのフレデリックさん、須藤さんが展示していた作品の一つに興味をもってくれ同年、高崎市街地で開催された高アートというアートイベントで作品を発表する機会を頂きました。作品は、高崎駅西口、ラジオ高崎の二カ所に一つ一つのコマを拡大した形で展示されゴールデンウィーク中多くの方に鑑賞して頂きました。高アートの作品は、その後、フレデリックさん等の協力のもと海を渡りフランスのプザンソン、マルセイユでも展示しました。



\* Bêtes d'expo ! (プザンソン)  
主催:プザンソン美術博物館、シタデル、プザンソン美術高等学院大学

アートプロジェクト高崎 同時開催

#### 武藤順九の宇宙

高崎シティギャラリー 第2展示室

#### THE ECHO

高崎シティギャラリー 第1展示室・予備室

主催:高崎アートインキュベーション推進会議

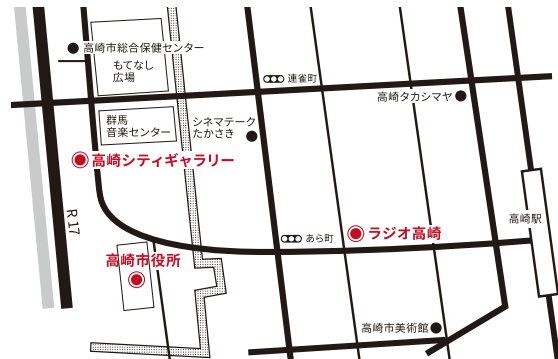
共催:高崎財団、高崎観光協会、ラジオ高崎 後援:高崎市



ラジオ高崎



高崎市役所



お問い合わせ:APT事務局(高崎財団内)

〒370-0829 群馬県高崎市高松町35-1 TEL:027-321-1213 ※土日休

**APT**  
ART PROJECT TAKASAKI



# 武藤順九の宇宙

いのちの風、高崎に。

いのち  
THE  
WORLD  
OF  
JUNKYU  
MUTO



“CIRCLE WIND 2011” -絆-  
(東日本大震災3.11 慰霊モニュメント 1/4ファーストイメージモデル)  
2011. H.64×L.80×S.26cm イタリア大理石

イタリア・ローマ近郊のアトリエ、トスカーナ州ピエトラサンタ、近年は京都にも拠点をおき、独自の境地を切り拓く画家・彫刻家の武藤順九。これまで多くの作品を発表し、その創作活動を通じて、いのちの尊さをうたえ続けてきました。大自然の営為が造りだした大理石と向き合い生まれた作品「風の環（かぜのわ）」シリーズは、2000年、パチカン市国・ローマ法王夏の離宮カステル・ガンドルフォに、史上初の抽象彫刻として永久設置されました。2006年には、インド・釈迦悟りの地であり仏教の聖地、世界遺産でもあるマハボディ寺院に永久設置。2008年には、アメリカ合衆国ワイオミング州・ネイティブアメリカンの聖地であり世界で最初の国立モニュメント・デビルスタワーに永久設置されるなど、その営みは、世界有数の聖地に作品が永久設置されるという成果に結実し、各地で多くの感動を誘い、共感の環をひろげ、人間愛に根ざした世界平和への意義をアピールしてきました。2012年、東日本大震災 鎮魂と追悼のモニュメント建立プロジェクトから、3.11慰霊モニュメント製作の依頼を受け、宮城県石巻市南浜地区に予定されている復興祈念公園（仮称）内設置に向けて、現在、官民一体の取組が進行しています。アートプロジェクト高崎では、3.11慰霊モニュメント1/4モデルをはじめ、パチカン市国、ブダガヤ、デビルスタワーなど世界の聖地に永久設置されたモニュメントのハーフサイズを中心に、13点の彫刻作品を特別展示いたします。また、武藤順九独自の技法ネオフレスコによる新作絵画「コンポジション 生命の詩（いのちのうた）」は、今回が初出展となり、近年のネオフレスコによる大作、および墨絵とともに武藤順九の宇宙観を展示いたします。高崎の地で、世界にひろがる風を肌で感じ、武藤順九の宇宙を感じてください。



“CIRCLE WIND”  
-PAX2000-  
ローマ法王夏の離宮  
カステル・ガンドルフォ  
永久設置(パチカン市国)



“CIRCLE WIND”  
-PAX2003-  
ピエトラサンタ  
永久設置(イタリア)



“CIRCLE WIND”  
-PAX2005-  
ブダガヤ・マハボディ寺院  
《世界遺産》永久設置(インド)



“CIRCLE WIND”  
-PAX2008-「聖なる煙」  
ワイオミング州デビルスタワー-国定公園内  
永久設置(アメリカ)

アートプロジェクト高崎

2016.9.24 SAT - 10.4 TUE 高崎シティギャラリー 第2展示室

開催時間：24日(土)13:00から／通常10:00～18:00／4日(火)15:00まで  
主催：高崎アートインキュベーション推進会議 共催：高崎財団、高崎観光協会、ラジオ高崎  
後援：高崎市

観覧無料

**APT**  
ART PROJECT TAKASAKI



# 武藤 順九の宇宙 THE WORLD OF JUNKYU MUTO



コンポジション 生命の詩(いのちのうた)  
2016. L.480×H.180cm ネオアフレスコ

## 武藤順九 略歴

- 1950年 仙台市に生まれる
- 1973年 東京藝術大学美術学部卒業後フランス、スペイン滞在
- 1975年 イタリア・ローマにアトリエを構え、現在に至る
- 1976年 ローマ国際オスカー展出品、絵画の部オスカー受賞
- 1978年 ローマ国際アーティスト展銀賞受賞
- 1997年 ヴェルシリア賞1997年度グランプリ受賞(彫刻、絵画)(イタリア)  
同受賞展・PAX2000 世界巡回展開始(イタリア)
- 2000年 「風の環-PAX2000-」 カステル・ガンドルフォのローマ法王公邸内に  
史上初の抽象彫刻永久設置(バチカン市国)
- 2001年 「風の環-PAX2001-」 仙台国際センターに永久設置(仙台市)
- 2002年 「シリーズ『記憶の壁』PAX2001-光の誕生-」  
世界遺産を総括する国際連合の専門機関ユネスコのパリ本部に永久設置(フランス)
- 2003年 「風の環-PAX2003-」 ピエトラサンタに永久設置(イタリア)
- 2006年 「風の環-PAX2005-」 仏教発祥の地ブッガヤ《世界遺産》に永久設置(インド)
- 2007年 彫刻作品「飛翔」東北の玄関・仙台空港駅に永久設置(仙台市)
- 2008年 「風の環-PAX2008-」 ネイティブ・アメリカンの聖地ワイオミング州デビルスタワー国立公園内に永久設置(アメリカ)
- 2009年 国際天文学連合が小惑星6098に対して武藤順九にちなんで MutoJunkyu と命名
- 2011年 「風の環-N.Y.9.11慰霊モニュメント-」 ニューヨーク市のジャパン・ソサエティーでプレビュー展示(アメリカ)
- 2012年 COP3京都議定書15周年プロジェクト「光・水・風 ~3.11復興への祈り~ KYOTO 2012」  
国立京都国際会館庭園に21点の彫刻作品を展示(京都市)  
同オープニングにて「東日本大震災3.11慰霊モニュメント1/4ファーストイメージモデル」初披露
- 2013年 東日本大震災 鎮魂と追悼のモニュメント建立プロジェクト発表(仙台市)
- 2014年 風の環 3.11絆プロジェクト実行委員会発足(京都市)
- 2015年 イタリア・ピエトラサンタにて、3.11慰霊モニュメント制作開始



untitled  
2010. L.134×H.67cm 和紙/墨



書籍 『風の環 武藤順九の宇宙』(神渡良平著/PHP研究所)  
『いのちを彫る 風の環の哲学』(武藤順九著/PHP研究所)

公式サイト 武藤順九の宇宙 <http://www.junkyu.jp/>

▶ 関連動画を YouTube「武藤順九」で検索

- ・武藤順九014/3.11風の環プロジェクト
- ・風の環3.11 東日本モニュメント活動
- ・武藤順九(1)
- ・武藤順九(2)
- ・3.11&人と自然 悲しみと愛~武藤順九の宇宙~
- ・Junkyu Muto's Universe: 3/11, Humans and Nature, Sorrow and Love(英語版・武藤順九の世界)

同時開催  
アートプロジェクト高崎

**THE ECHO**  
高崎シティギャラリー第1展示室・予備室

**アーバンプロジェクト 松岡洋太 / 豊田玉之介**  
ラジオ高崎・市庁舎1F  
壁面や建造物にペインティング、大型絵画を展示するダイナミックなパブリックアート。

主催：高崎アートインキュベーション推進会議  
共催：高崎財団、高崎観光協会、ラジオ高崎  
後援：高崎市



お問い合わせ: APT事務局(高崎財団内)  
〒370-0829 群馬県高崎市高松町35-1 TEL:027-321-1213 土日休

高崎シティギャラリー  
〒370-0829 群馬県高崎市高松町35-1 TEL:027-328-5050

**APT**  
ART PROJECT TAKASAKI